

ご挨拶

第 14 回学術集会 名古屋大会 大会長
名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部感覚器外科・耳鼻咽喉科
藤本保志

日本神経筋疾患摂食・嚥下・栄養研究会第 14 回学術集会名古屋大会を平成 30 年 10 月 27 日土曜日に名古屋大学医学部附属病院講堂において開催いたします。今回、担当させていただくことを大変光栄に存じております。

神経筋疾患と銘打った研究会を耳鼻咽喉科・頭頸部外科医が担当することへの不安がありました。解剖や手術の狭い世界から場をかき回すだけでは全く不足です。今回の開催にあたっては研究会世話人の先生方、多くの会員の皆様、嚥下研究の同志諸君、名古屋大学脳神経内科・脳とこころの研究センターの先生方、多くの方々の御指導をいただきました。心から厚く御礼申し上げます。

特別講演には祖父江元先生に御願いました。筋萎縮性側索硬化症 (ALS)、球脊髄性筋萎縮症 (SBMA) の研究における世界のリーダーです。難病を諦めずに長年にわたって、遺伝子レベルからの病態解明とその臨床応用にいたるまでの研究を嚥下障害もからめてお話いただきます。

教育セミナーとしては益田慎先生に乳幼児の嚥下についてお話いただきます。乳幼児期の嚥下障害は本会ではあまり取り上げられませんでした。発育・発達を考慮した対応や考察は嚥下への深い理解につながります。

シンポジウムは“気道・気管切開管理とトラブル予防”をテーマとしました。窒息の問題は実臨床において重要です。鹿野真人先生、木村百合香先生、富田聡先生は常に現場で、患者のそばで工夫を積み重ねていらっしゃいます。会場も含めた深い討論を御願いました。

おかげさまで一般演題には 13 題をいただきました。“研究会”の基本は一般演題にあります。新しい知見・ヒントを得るためにさまざまな視点からの意見、異なる観点からの指摘が大切です。今回は嚥下動態の解析、一例一例への深い考察、リハビリテーションや治療における問題点の考察などすぐれた演題をいただきました。大きな学会では職種や興味が異なると会場が別々になります。1つの会場での研究会の良さを活かして、楽しい討論を期待いたします。

皆様のご参加を心よりお待ちしております。

参加者へのご案内

- 参加受付

受付場所：名古屋大学医学部附属病院 3階 講堂

受付時間：10月27日（土） 9時～16時30分

- 受付方法

- 1) 事前参加登録がお済みの方

会場受付にて、参加証、プログラム、ネームホルダーをお受け取りください。

なお、非会員で事前登録されても、以前より会員であった方、当日までに会員となられた方は、学会事務局デスクで発行する証明書を持参して受付にお申し出ください。

2,000円を返却いたします。

（事前参加登録料：会員 3,000円 非会員 5,000円）

- 2) 当日参加登録をされる方

記名台にて申込用紙をご記入の上、受付にて参加費をお支払いください。引き換えに、参加証、プログラム、ネームホルダーをお渡しします。

当日参加登録料：会員 5,000円 非会員 7,000円

- 新入会・年会費受付

新規会員登録、年会費登録は総合受付横の学会事務局デスクにてご対応致します。

研究会事務局：国立病院機構鳥取医療センター神経内科

（〒689-0203 鳥取県鳥取市三津 876 番地）

年会費：医師・歯科医師 5,000円 コメディカル・学生 3,000円 法人 50,000円

URL：<https://www.jsdnm.com/>

- ランチョンセミナー

事前参加登録時に昼食のお弁当をお申し込みされた方には、受付時に引換券をお渡しします。当日参加の方にも若干数のご準備をしております。お弁当がなくても受講は可能です。

- 企業展示

企業展示は講堂後方ホワイエにて行います。

- クローク

講堂奥の会議室でご用意しております。貴重品のお預かりはできませんので、あらかじめご了承ください。開設時間：9時～18時30分

● 日本摂食嚥下リハビリテーション学会単位

教育セミナー「乳幼児の摂食嚥下障害」、特別講演「運動ニューロン疾患の病態と治療-ALSとSBMAについて-」を受講することにより、日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士更新時の単位として、各々5単位（合計10単位）が取得できます。受付でお渡しした用紙に、氏名と認定士番号を記載し、受講証明書と交換してください。受講証明書は、認定資格更新時に必要となりますので、大切に保管してください。

● 日本耳鼻咽喉科学会領域講習単位

教育セミナー「乳幼児の摂食嚥下障害」を受講することにより、日本耳鼻咽喉科学会領域講習1点を取得することができます。受付でお渡しした用紙に、氏名と専門医番号を記載し、受講証明書と交換してください。受講証明書は、専門医資格更新時に必要となりますので、大切に保管してください。

● 専門医共通講習単位

シンポジウム「気道・気管切開管理とトラブル予防」を受講することにより専門医共通講習1点を取得することが出来ます。受付でお渡しした用紙に、氏名と専門医番号を記載し、受講証明書と交換してください。受講証明書は、専門医資格更新時に必要となりますので、大切に保管してください。

● 座長の方へ

座長はセッション開始10分前までに会場内の次座長席にご着席ください。ご担当のセッションの口演・質疑応答時間を厳守し、時間内に終了するようご配慮ください。

● 演者の方へ

- 1) 一般演題の発表時間は7分、質疑応答は5分です。発表時間の厳守をお願いいたします。
- 2) スクリーンは一面です。
- 3) すべてPCによる発表となります。ご自身でPCを操作して頂きます。
- 4) 画像の解像度はXGA（1024×768）に統一しますので、ご使用のPCの解像度をXGAに合わせてからレイアウトをご確認ください。
- 5) お持ち込み頂く発表データは、「USBフラッシュメモリ持ち込み」もしくは「ご自身のPC持ち込み」のいずれかをお願いします。
- 6) 演者は発表45分前までに必ずPC受付へおこしの上、受付を済ませて下さい。
- 7) PC受付の場所は、講堂後方ホワイエとなります。
- 8) 発表ファイル名は、「セッション名[演題番号][氏名]」としてください。
- 9) 事務局でご用意しているPCのOSはwindows8、ソフトウェアはPowerPoint 2013です。フォントは文字化けを防ぐため、PowerPointに標準設定されているものをご使用ください。

- 10) 動画・音声あり、Macでの発表の場合は、ご自身のPCと電源アダプターをご持参ください。Macでは必ずMiniD-Sub15ピンの変換アダプターもご用意ください。
- 11) お預かりしたデータは、大会終了後、責任をもって消去いたします。
- 12) 発表終了後、オペレータ席でPCを返却いたしますので、お立ちより下さい。

● その他ご連絡

- 1) 会場内での許可なき録音・録画・撮影はご遠慮ください。
- 2) 会場内では携帯電話の電源を切るか、マナーモードへの設定をお願いいたします。
- 3) 会場敷地内は禁煙です。

● 大会事務局

日本神経筋疾患摂食・嚥下・栄養研究会第14回学術集会名古屋大会事務局
名古屋大学医学部耳鼻咽喉科医局内
〒466-8550 名古屋市昭和区鶴舞町65
TEL : 052-744-2323 FAX : 052-744-2325
E-mail : jsdnm2018@gmail.com
URL : <https://www.jsdnm.com/2018nagoya/>

第15回 日本神経筋疾患摂食・嚥下・栄養研究会学術集会 岐阜大会

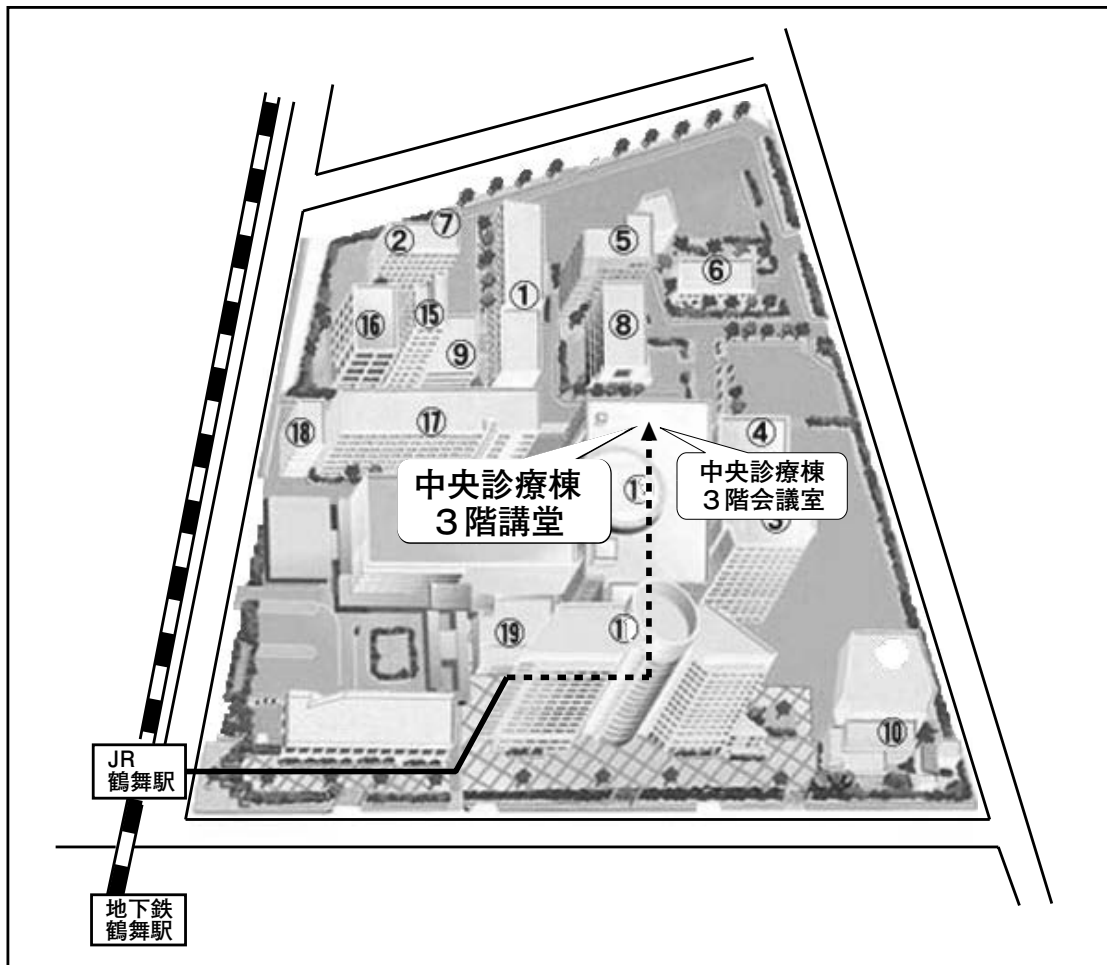
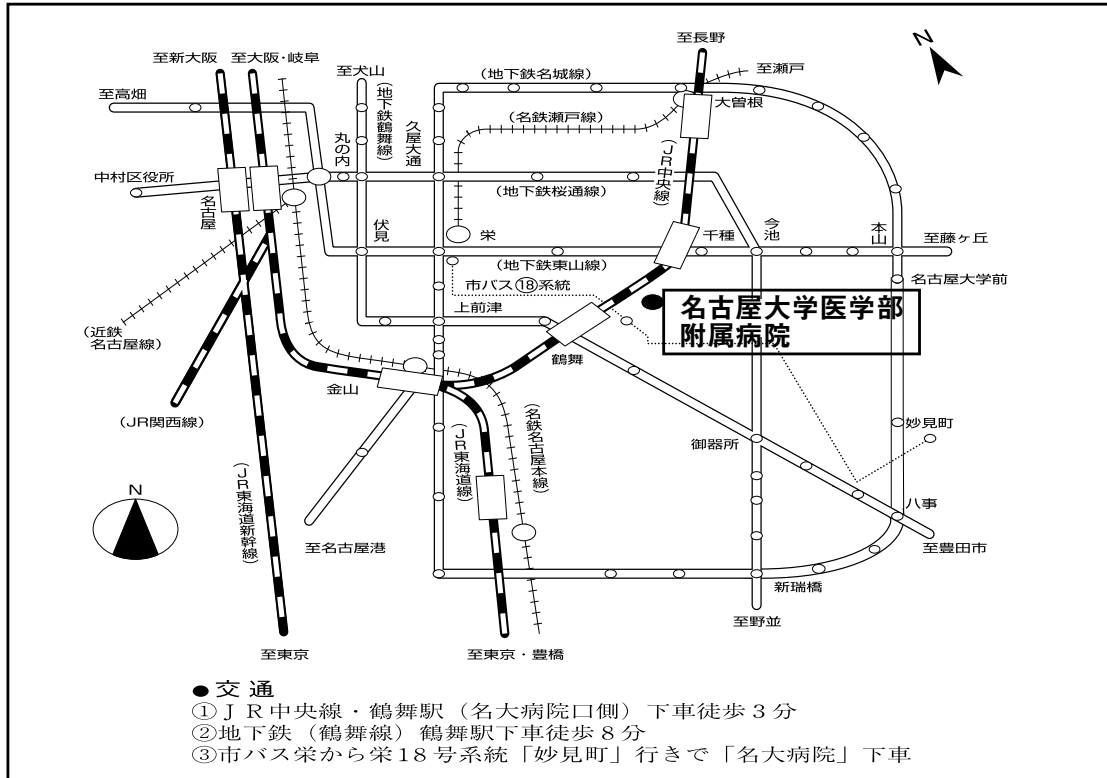
大会長：下畑 享良（岐阜大学大学院医学系研究科神経内科・老年学分野神経内科・老年内科）

スローガン：神経筋疾患患者さんのQOLを高める ～倫理から栄養まで～

開催日：2019年10月19日（土）

会場：長良川国際会議場 4F 大会議室、3F 第1及び2会議室

会場周辺図・交通案内



日程表

開会式 9:55-10:00

開会挨拶：藤本 保志 (名古屋大学大学院医学系研究科 頭頸部・感覚器外科学講座 耳鼻咽喉科学)

教育セミナー 10:00-11:00

座長：津田 豪太 (聖隷佐倉市民病院 耳鼻咽喉科)

乳幼児の摂食嚥下障害

益田 慎 (県立広島病院 小児感覚器科)

※日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士認定資格更新単位セミナー 5単位

※日本耳鼻咽喉科学会領域講習 1単位

一般演題 I 11:10-12:00

座長：和座 雅浩 (各務原リハビリテーション病院 摂食嚥下栄養科)

梅本 丈二 (福岡大学病院 歯科口腔外科)

1. 多系統萎縮症患者の上部食道機能障害：高解像度内圧検査より
上羽瑠美 (東京大学 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)
2. 筋強直性ジストロフィー患者のUES部機能と高解像度マノメトリの有用性
田中加緒里 (愛媛大学医学部 耳鼻咽喉科)
3. 下顎固定法の提案 — 頸部等尺性収縮手技を応用した代償嚥下—
小山恭平 (名古屋大学医学部附属病院 リハビリテーション部)
4. 神経筋疾患患者の舌厚みと舌圧の経時的変化
梅本丈二 (福岡大学病院 歯科口腔外科)

ランチョンセミナー 12:10-13:00

座長：堀口 利之 (北里大学 医療衛生学部 言語聴覚療法学専攻 音声言語医学学科)

嚥下障害の外科治療

藤本 保志 (名古屋大学大学院医学系研究科 頭頸部・感覚器外科学講座 耳鼻咽喉科学)

特別講演 13:10-14:10

座長：藤本 保志 (名古屋大学大学院医学系研究科 耳鼻咽喉科学)

運動ニューロン疾患の病態と治療 — ALSとSBMAについて—

祖父江元 (名古屋大学大学院 脳とこころの研究センター)

※日本摂食嚥下リハビリテーション学会認定士認定資格更新単位セミナー 5単位

一般演題 II 14:20-15:10

座長：渡辺 宏久 (名古屋大学大学院 脳とこころの研究センター)

大塚 義顕 (独立行政法人国立病院機構 千葉東病院 歯科)

5. 全身性アミロイドーシスを呈した嚥下障害症例

堀川康平 (兵庫医科大学病院 リハビリテーション部)

6. 嚥下障害を発症した X 連鎖性ミオチューブラーミオパチーの 1 例
佐藤えみり (川崎市立川崎病院 耳鼻咽喉科)
7. 神経疾患後遺症とされていた 9 歳発症延髄梗塞例と治療後長期経過
三枝英人 (東京女子医科大学八千代医療センター 耳鼻咽喉科・小児耳鼻咽喉科)
8. 神経筋疾患に対する声門閉鎖術実施における周術期の問題点
古川竜也 (神戸大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

一般演題 III

15:15-16:20

座長：下畑 享良 (岐阜大学 神経内科・老年内科)

清水 充子 (埼玉県総合リハビリテーションセンター 言語聴覚科)

9. パーキンソニズム患者における肺炎発症後の経口摂取に関わる因子
田積匡平 (岡崎市民病院 リハビリテーション室)
10. 筋萎縮性側索硬化症患者の診断後の体重管理は生命予後を改善する
清水俊夫 (東京都立神経病院 脳神経内科)
11. KTBC を用いた実施プログラムのリハアウトカムと栄養指数への影響
和座雅浩 (各務原リハビリテーション病院 摂食嚥下栄養科)
12. 全国の医療系施設を対象にした VF・VE の実施に関する調査
田中誠也 (国立研究開発法人国立長寿医療研究センター 治験・臨床研究推進センター)
13. ICT による遠隔医療 摂食嚥下リハビリテーションの試み
野崎園子 (関西労災病院 神経内科)

シンポジウム

16:30-18:00

「気道・気管切開管理とトラブル予防」

座長：巨島 文子 (諏訪赤十字病院 リハビリテーション科)

二藤 隆春 (東京大学医学部 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

- 1) 神経筋疾患における気管切開への対応
～患者背景による術式選択とカニューレ管理
木村 百合香 (東京都保健医療公社荏原病院 耳鼻咽喉科)
- 2) 神経筋疾患患者に対するオーダーメイド気管切開チューブの導入
富田 聡 (国立病院機構 宇多野病院 臨床研究部・神経内科)
- 3) 食物による窒息事故への対応
鹿野 真人 (大原総合病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科)

※専門医共通講習 (医療安全) 1 単位

開会式

18:00-18:10

次期会長挨拶：下畑 享良 (岐阜大学大学院医学系研究科神経内科・老年学分野神経内科・老年内科)

閉会挨拶：藤本 保志 (名古屋大学大学院医学系研究科 頭頸部・感覚器外科学講座 耳鼻咽喉科学)